

第24回 番組審議会議事録概要

1. 開催日時

令和5年12月13日(水) 午前10時30分より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 渡邊健一、池田哲雄、宮崎美紀子、砂川浩慶、笹田佳宏、長谷川晶一

株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、福本洋、窪田正利、石井浩二、永竹里早、岡本栄史、
武井俊人、森本聡

株式会社フジテレビジョン

落合祐輔

株式会社JCOM

斎藤弘之

株式会社WARNER BROS. DISCOVERY

土谷大輔、高山真詩

株式会社CJ ENM JAPAN

三澤法夫

4. 議題

1) 「大解剖！世界歴史建築ミステリー」

ディスカバリーチャンネルにて令和5年12月5日放送

2) 「スポーツドキュメンタリー “スターアスリート”」

フジテレビ ONE スポーツ・バラエティにて令和5年9月10日放送

3) 株式会社サテライト・サービス 番組基準変更についての諮問

4) その他 報告事項

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■ディスカバリーチャンネル

大解剖！世界歴史建築ミステリー「ファラオの秘密～」について

- ・「ツタンカーメン」「クフ王」はやりつくしている感はあるが、別の赤いピラミッドを取り上げていることで、素材が違うので目新しくみることができた。
- ・CGで中身を見せるのは分かりやすい。例えば、「持ち送り方式」をCGで表現してくれたおかげでまったくの素人でも理解が進んだ。
- ・登場人物スネフェル王がクフ王のお父さんであり、彼が試行錯誤して3つ作った結果、その息子であるクフ王が有名なギザの3大でかいピラミッドを作り上げた、という大河ロマンを感じた。家系図的のようなものでクフ王の父親だとよりよく伝えたら、もっと楽しく関心をもって見ることもできたのではないか思った。
- ・たくさんある中のピラミッドの番組の1つ、という感じであり印象に残らなかった。
- ・本当に新しいモノが無い。大解剖でもないし、建築ミステリーでもないし、ちょっと邦題が暴走している。ただ、私個人としては歴史が元々好きなので、とても楽しく見ることもできた。子どものための世界の歴史全集や、一家に一冊ある学習図鑑シリーズみたいな番組だなと思って見ていた。
- ・「持ち送り方式」という言葉を聞いたことがある日本人はいないのではないかと思う。古墳の独特の専門用語で、何回も出てくる割には1回もテロップが無い。なじみのない地名や外国人の名前とかにちょっと字幕があるだけでだいぶ違うのではないかと思う。
- ・研究者として登場した女性の立ち位置が良く分からなかった。「詳しい人」として出演している割には、「初めて発見した」というような発言が多い。
- ・女性のコメントで「ピラミッドの完成形でない」「石が粗削りで仕上がっていません」とあるが、ピラミッドは映像では完成していて実態と合っていないと感じる。日本語訳をもう少し丁寧にすると、理解が深まるのではと感じた。
- ・斜めに入って行く坑道について、研究者の女性が2回目に入ったときに「ここは人が行く通路ではない」と断言しているが、「では何のための通路なのか」という疑問はそのまま放置されたまま終わってしまったのが残念。編集は変えられないから、あれは何に使われたのか、という説明のテロップが入るだけで溜飲が下がる。
- ・番組自体の編集に制約があるなら、本編をフォローするミニ枠番組の制作を提案したい。番組前後に解説枠があることで視聴者的により理解が深まるのではないか。
- ・本件はWikipediaにも載っているし、ミステリーというより、すでに旧知の事実。ただ、テレビの視聴者というのは世代が変わっていて、また最初から説明する必要もある。未成年を対象にした学習図鑑のような役割を果たす番組であり、ドローンを使用するなど図鑑ではできない映像的な表現は評価をしたい。

委員からの意見に対し制作サイドから

(株式会社 WARNER BROS. DISCOVERY 高山真詩氏)

- ・この番組は詳しい人からすると物足りないところがあるかと思うが、入門書的な番組としてご覧いただくには見応えがある番組だと考えている。
- ・ご指摘いただいた系図を出すというのはわかりやすくいいと思いますが、ルール上、番組に日本語テロップを入れることはできない。ただし「持ち送り方式」について不親切な部分もあったと思うので、翻訳で補足する工夫を考えていきたい。
- ・番組前後に解説をしてくれるミニ枠を編成することは可能ではある。権利関係を調整したうえで、社内で検討したい。かつての地上波の洋画放送のように、解説者の方が一言決まり文句を言うような映像があれば、より親しみやすくなるのではないかと思った。今後も知識欲を刺激するエンターテインメント番組としての役割を果たすことができればと思う。

■フジテレビ ONE スポーツ・バラエティ

スポーツドキュメンタリー “スターアスリート”

「バレーボール日本代表 西田有志/古賀紗理那」について

- ・フジテレビらしい、長年取材をしていたからこそ、彼らの内側に入り込んでいる取材が功を奏した番組だと思う。バレーボール選手の二人のなれそめを知ることができ、新婚カップルの初々しさも知れて全体的によかった。両親も出演し、子供のころのエピソードを披露してくれることで深みが出ている。
- ・好感しかない。アスリートの食事シーンといえば奥さんが凝った料理を出すことが多いが、この夫婦はシンプルな食事で一般的。同じTシャツを着て、二人の会話の内容もかわいらしい。試合のときの姿とプライベートのギャップをうまく繋げていたと思う。
- ・夫婦という別々のパーソナリティを持つ2人の人間を1本の中に盛り込むというのはかなり大変だろうと思った。女性の選手に男性のDが踏み込むのは緊張感や遠慮が発生するだろう。かといって女性のDが撮るとなると2名それぞれの目線で撮影をすることになり、いろいろと難しいのだろうと思う。
- ・普通のドキュメンタリーだったら大会の開催に引っ掛けた物語の起承転結を撮るのだが今回はオフシーズンでの撮影。いい意味でニュース性が無い時期に撮影したドキュメンタリーとなったので普通の番組だったら削られそうな普段の小さなことも組み込めていた点が、他の作品にあまり無いものを表現できたという点で良かった。
- ・この選手の何がすごいのかを描かずに突然プライベートシーンから始まってしまっていたが、エースとして活躍しているシーンを入れておくによりプライベートシーンの価値が上がったのではないかと思う。

・スターという言葉に違和感を覚えた。スターは大谷のような犬とコメントを出しただけで大騒ぎになるような人間を指すと思う。そういった意味ではそぐわないのではないかなと思う。

・夫婦のお財布がどうなっているかなどが気になった。給与体系など、そういうところを教えていただけると別の意味で、こういうアスリートの夫婦のドキュメントとしての際立ち方はすると思う。

・突然男性のナレーションが入るのに違和感があった。

・「達磨の目を入れたい」と言うシーンがあったが、目が不自由な方々への配慮の観点から選挙の特番などでは達磨の目を入れるシーンは映さないことになっている。過剰に気にするのはよくないがそういった観点のチェック体制を強化すべきではないか。

・ラストの星のCGとナレーションは違和感を覚えた。

・最後、星でまとめるなど、パリ五輪の応援番組でありヒューマンドキュメンタリー番組であるというスタイルは見ていて理解したのだが、もう少しおしゃれにできたのではないかという印象がある。内容だけではなく編集の仕方や色使い、照明など、この番組だけの特別なやり方でやるという意識をもって冒険をしてほしい。

・のちのちこの番組は貴重な映像となるかもしれない。将来的にわたっていい番組になると思うので是非継続してほしい。

委員からの意見に対し制作サイドから（株式会社フジテレビジョン 落合氏）

・本番組は、多々あるスポーツ中継番組に向けて各競技担当者が取材をしている「世に出てない素材」を世の皆様にお伝えしたいという思いから始まった。ドキュメンタリーという特性上、選手の辛い部分も取り上げなければいけない面もあるが、基本的には取り上げた選手を応援したくなるような読後感を感じられる番組を作っていきたいと考えている。

・本番組はCS放送だけでなく、フジテレビの配信サービスであるFODで視聴できる。すべての視聴者がスポーツに興味のある方々ばかりではないと考え、なるべく競技に寄せる部分と、選手の内面に寄せた部分を多くしようと演出している。

・「スターアスリート」という名称に関しては、現在の大物スターだけでなく、未来のスターにもスポットライトを当てるという意味も込めている。

・古賀選手が高校一年で初めて全国大会に出場した時から密着している男性ディレクターが取材を担当している。プライベートで連絡を取り合うなど強固な関係性ではあるものの、女性のディレクターも演出に加わっていれば、また違った目線であったり、取材の切り込み方ができたりしたのではないかと思う。

・達磨に関しては、目を入れるシーンの映像はないが、チェックは十分ではなかった。より多くの人の目に触れるチェック体制で今後は制作していきたい。

■株式会社サテライト・サービス番組基準の一部変更についての諮問

当社では、放送法第5条に基づき、“放送番組の編集の基準”として「株式会社サテライト・サービス 番組基準」を定め、同基準に従って番組の放送を行っているが、前回の改定から6年が経過したことで新たに内容を見直すこととした。改定にあたっては、衛星放送協会の放送基準を参考に具体的な基準を追加し、基幹衛星放送事業者として社会の変化、価値観の多様化に対応するうえで、必要十分な内容が記載されるように案を作成した。この改正案について、放送法第6条第5項に基づき本日の番組審議会に諮問する。

<改正案に対する委員からの意見・質問>

・衛星放送協会の内容に準拠しながら、「SNS等における誹謗中傷等に関する項目」の部分については民間放送連盟が施行する新しい条文を先取りするかたちとなっている。こうした衛星放送協会と民間放送連盟の「いいとこ取り」は今後も是非やっていただきたい。条文に記載のある出演者への配慮やケアはフジテレビ全体で本件を形骸化させることなく対応していただきたい。

・「20歳未満の喫煙、飲酒および法律で未成年に禁じられている行為を正当化することのないようにする」という項目、「広告の放送時間」に関する項目、アニメガイドラインについての項目、以上3点に関しては衛星放送協会の放送基準から引用していないが、その判断理由を教えてください。

→ 株式会社サテライト・サービス 窪田取締役からの回答

サテライト・サービスとしては全体的にシンプルな内容にすることをこころがけており、「20歳未満」の項目については、児童および青少年の人格形成に関する影響云々の部分に包含している。また広告についてはサテライト・サービスの7つのチャンネルでそれぞれ独自の番組基準を持っているため、基本的な広告の基準というものを明記するのみにとどめた。アニメーションに関してはそれだけを取り上げず、番組制作への配慮という形でまとめている。

以上の諮問を経て、審議会からこの変更が妥当と判断された。2月1日付けをめざして株式会社サテライト・サービス番組基準の変更の作業を行う。

次回予定

- ・次回は2024年3月開催を予定。
- ・議題はスペースシャワーTVとMnetの番組の予定

以上